

らい 来ぶらり 29

必 読

図書館キーワード

NEW KNOWLEDGE AND FRESH UNDERSTANDING

「おお、季節よ！ おお、城よ！」

フランスの天才詩人ランボーの詩の一節である。彼は、何を象徴的に歌ったのであろうか。変化するものとしめないもの。回り巡ってくるものと不動のもの。おお季節よ、卒業と入学。おお城よ、大学図書館。これらを、4年間のサイクルが支配する。しかし、不動の姿形でそびえたつ図書館も、過去数年間で、その機能を大きく変化させ、更にまた、変化しようとしてさえている。そこで、今回は、激変する図書館環境の変化に応じて、利用者にも全く新しいイメージで図書館を考えてもらえる様なキーワードを特集してみました。

その1

パ ト ロ ン

もちろん、図書館用語である。主に公共図書館で使用される傾向がある。しかし、要は、図書館の背景には、利用者に対してこのような言語センスが存在することに注目したい。

その2

端 末 検 索

目録と言えば、カードを主体とした形式が一般的。このカードを完全に無くせば、カードレス。端末検索は、その一手段。利用者は、これを積極的に受け入れると言われる。

その3

書誌ユーティリティー

ある時、木片が、自分はヴァイオリンの一部であることに気付いた、としたらどうなるだろうか。これと、極めて似た状況がある。木片は、大学図書館。さて、ヴァイオリンは？

その1

パトロン

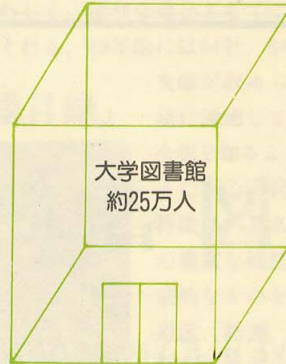
誤解の多い言葉である。少なくとも、まだネガティブな印象が強い。例えば、「あの人には、パトロンがいるらしい…」の様に。同じ類の言葉に、「グラマー」がある。「グラマー女優としてならした、往年のハリウッド・スター…」のそれである。しかし、実際には、次の様に使われるのだろう。「Glamorous Anne」の様に。例えば、これを、こんな風に訳してみよう。「魅惑的なアン王女」と。本来の意味は、優しく上品なのだ。パトロンだって同様である。

パトロン＝同義語は、Library user。言ってしまうと、図書館利用者のことである。しかし、その意味と意義は、深く大きく、更にアクティブでさえある。

パトロンとは、何よりもまず、図書館の資料とサービスを使用する者である。また、パトロンとは、図書館を、その精神において、擁護し、支援している者の意であり、称号なのである。もっとも、彼ら自身が、実際にそれを意識することはないのだが。

入館者総数

1989年度



彼らの行動が、図書館に活気と洗練を与え続ける。彼らの存在が、図書館の機能と性能を引き上げようとする。素晴らしいユーザーに期待する。なぜなら、パトロンのない図書館なんて、捨て去られ、忘れ去られたゴースト・タウンの様なものだから。(編集部)

その2

端末検索



検索は立ったままの姿勢で行う

「さあ、今度の休みに新幹線の指定席を利用して出かけてみよう」と思ったら、駅のみどりの窓口に行って、出かける日と乗りたい電車の時刻を告げて、欲しいキップを手に入れる。これも一つの方法。けれども、今や家でプッシュホンの受話器から伝わってくる女性の声と対話するようにボタンをピッピッと押していくと、欲しいキップの予約ができる。

買い物だって同じこと。通信販売を利用すれば、わざわざデパートまで行かずに、家にいながらにして、買い物ができるし、今やさらに進んで、キャプテンシステムを使って、ホームショッピング。キーボードをたたいてテレビやパソコンの画面にお買い物情報を映

し出して、欲しい商品を自宅に配達してもら
う。これが、今様なのだ。

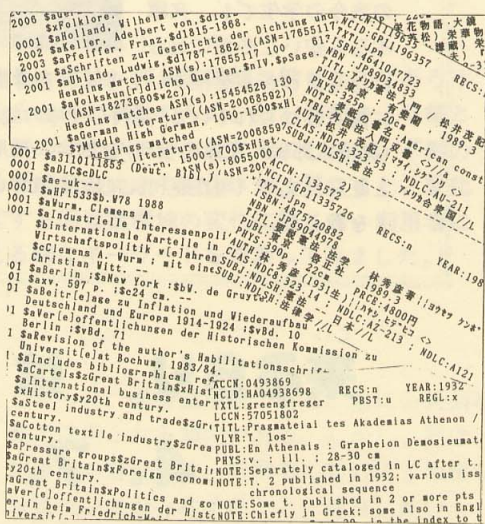
図書館だって同じこと。図書館がどんな本を
持っているか、これは目録カードを引けば分か
る。カードケースの中には、大量のカードが入
っていて、大量の情報が詰まっている。本が増
えれば、おのずとカードが増え、カードケー
スも増える。カードケースの端から端を歩き
回り、あちらこちらのケースをあけ、カード
を引いて、やっとのことで欲しい本の情報が
得られたなんていうことはよくあることだ。
もし、このカードを無くしてしまったら、た
ちまち、情報は得られなくなり、図書館がど

んな本を持っているか分からなくなっていま
う。カードは図書館の三種の神器なのだろう
か。ところが大丈夫。「カードを無くしてもへっ
ちやらさ」といわんばかりに、新種の神器が
現れた。端末検索の登場である。仕組みは簡
単。まず、図書館が持っている本の情報がコ
ンピュータに入力される。目の前のキーボ
ードを指でたたいて、それを呼び出してみる。
画面に出てきた情報が、カードに代わるもの
である。小さな1台の端末機の奥にはカード
ケース何箱分にも当たる大量の情報が詰ま
っている。カード検索と端末検索、どこがち
がう? (編集部)

その3 書誌ユーティリティー

ユーティリティーという言葉を意識するか
否かにかかわらず、我々は日常その恩恵に浴
している。例えば、朝シャンとブローを済ま
せ登校したNさんは、図書館に寄り、文献の
所蔵調査を依頼した、とする。

登校前の朝シャンとブローは、電気・ガス・
水道を利用している。普通このような公益サー
ビス施設をユーティリティーと言っている。
では、書誌ユーティリティーとなるとどうな
るか? 書誌ユーティリティーとは、書誌情報
を、いつでも・どこでも・簡単に入手できるこ
とを目標に組織された企業体をいう。具体的
には、書誌データベースを利用者が必要とす
る時にオンラインで供給する、という役割を
果たす。現在、日本もネットエリアに入っ
ている世界的な規模の書誌ユーティリティーと
して、1967年に創設されたアメリカのOCLC
(Online Computer Library Center) と、1971
年に創設されたカナダのアトラス (Utlas) が
ある。本学でも1987年9月からアトラスの参
加館となり、現在18,000冊を超える洋書が入
力されている。また、同年12月からは、文部
省が主導する日本最大の書誌ユーティリティー
である学術情報センターの「情報検索サー
ビス」の利用を開始した。1989年からは同セン
ターのデータベースを利用した和書の整理も
着々と進み、コンピュータ化の第一歩を踏み



出している。今後、書誌ユーティリティーは
ますます巨大化し、クオリティーを保ちなが
ら書誌情報をいかに早く・安く利用者に提供
できるかが競われて行くであろう。

さて、Nさんから文献の所蔵調査を依頼さ
れた参考係は、電話回線を利用してコンピュ
ータの端末機から学術情報システムとアトラス
を検索し所蔵館を調べNさんに回答した。こ
の二つの書誌ユーティリティーの接続時間は
合わせてもわずか2~3分、条件さえ合えば
オンラインで貸出の依頼もできる便利なシス
テムなのである。(洋書係 中村清子)

もうかなり以前のことだが、貸出カウンター
の当番をしていた時に、有島武郎の「宣言一
つ」を借りたいという学生が何人か来たこと
があった。いずれも講義中に先生から指示が
あったものとみえ、次々とかなりの人達が短
時間にやってきた。目録カードによって『有
島武郎全集』のほかにも、
二つの文学全集に収録さ
れていることを発見した
が、もちろんそれだけで
は足りないし、そもそも
その三点もすでにすばし
こい人達に借り出されて
いた。そこで、いくら本
を買わなくなったと評判
の当今の学生でも、文庫
本なら安いし必要に迫ら
れたら買わざるを得まいと考え、参考図書室
に備え付けられている『便利な文庫の総目録』
(森浩太郎編 文庫の会刊)を調べ、角川文庫
と旺文社文庫(現在廃刊)に収められているこ
とを教えた。

『便利な文庫の総目録』



出版界は今、第四次文庫ブームといわれ、
市場には24,000点もの文庫が出回っていると
いう。この膨大な文庫の中からお目当ての一
冊あるいは一作品を探し出すのは容易なこと
ではない。『便利な文庫の総目録』はその名に
ふさわしく、便利な道具としてこの手助けを
してくれる。'89年版には54社、84シリーズの

文庫が収められ、現在市
場に流通しているものの
全貌を知ることができる。
また、この目録の最大の
特徴は、書名作品名索引
の豊富な機能にある。代
表的なものをあげると、
岩波、新潮、角川など主
な12の文庫についてはそ
の表題作だけでなく、収
録された短編作品の一編

一編からも検索できること。「宣言一つ」もこ
の機能があってはじめて探すことができた。
ほかにも訳書名の異なる外国作品の相互検索
ができるなど、随所に編者の工夫が凝らされ
ている。
(整理課長 種田昭平)

らい
来ぶらり〇〇は

4、7、10、1月発行です。

編集後記

「魔法の宅急便」の映画を見た小2の娘が、竹ぼうきを引っぱり出してきて、主人公キキの
ような格好をして、空を飛ぶ練習をしている。至極本気である。練習をした結果、「少し飛べた」
とも言う。大人は「この子大丈夫かしら」と少々心配するが、そう言えば幼いころ、誰しも、
スーパーマンになりたいとか鳥になりたいとか、空を飛ぶことに憧れたものだった。そういう
憧れを「人は飛べない」という一言で片づけたくないと思うこのごろである。

来ぶらり No.29 1990年4月1日発行

発行責任者：高本 進 編集委員：鈴木宗一 工藤晶子

学習院大学図書館 〒171 東京都豊島区目白1-5-1 ☎(986)0221